

木と暮しのふれあい展 東京事務所

10月13日(土)・14日(日)の両日、「第38回木と暮しのふれあい展」

(主催・東京都・一般社団法人東京都木材団体連合会)が都立木場公園(江東区)で開催され、東京事務所も協賛のうえブースを出展し国有林のPRに努めました。

この催しは「森を育てたい。だから木を使おう。」をメインテーマに、都民に木とふれあえる機会を提供し、暮らしの中での木材利用を推進することを目的として毎年「木づかい推進月間」でもある10月に行われています。当日は、東京都の各木材関係



開会式(渡邊林野庁林政部長祝辞)

団体等が参加し、木工教室等の木とふれあう体験や木製品の展示販売、木造住宅相談、特産物の販売のほか、木挽きの実演、太鼓の演奏、木場の木遣り等が行われました。



東京事務所の出展ブースでは、職員手作りの「つき板」(薄い木の板)のコースターや国有林にある世界自然遺産が分かるワークブックを配布して、貴重な自然環境を有する国有林の情報発信に努めるとともに、もっくん(小枝のキーホルダー)や木の実はリースなどを作る子供達に大人気の「森林クラフト体験コーナー」や、緑の募金にご協力していただいた参加者には、簡単なゲームでプレゼントをゲットするコーナーなど、行列が出来るほどのたくさんの親子で賑わいました。

両日共に曇りがちながらすごしや



参加者の作品

すい天候で、来場者がどっと押し寄せ、2日間で約7万人にも達し盛況なイベントとなりました。

きのこ特集

肝臓は酸っぱい?!

カンソウタケ(食)(カンソウタケ科 カンソウタケ属)

6月中旬から9月中旬にシイヤスダシイの傷ついた根元付近に発生します。カサは5cmから30cmで、形はへら形から扇形、表面はザラザラして赤紅色です。

柄は短く上部はカサと同色で下部は白色です。ヒタは管孔状で始め紅色で後に濃赤褐色になります。

カンソウタケの和名の由来は、きのこが肝臓に似ている所から和名が命名されました。

肉は赤色で白い筋があり、味は酸味が強いです。

